導入検討プラン 06 / 供給と運営を支える

受注を支える、工程の判断を整える

製造・生産

受注した仕事を納期・品質に沿って遂行するため、既存の生産体制をさらに整えるとき。人の経験、設備、部材、契約の制約を分けて確認します。

> 目指す仕事の状態
>
> 工程を進めるための情報と判断の担当がそろい、若手が任された範囲を進め、専門家へ必要な相談ができる。

当社が担う仕事

01 直近の一工程をたどる

準備や判断に時間を要した案件で、必要な情報、決める人、次工程への影響を整理します。

02 任せる仕事を決める

若手が判断する範囲と、専門家が確かめる条件をそろえ、実務で経験する機会を選びます。

03 工程の事実から見直す

準備の完了、判断待ち、再作業、専門家の負荷を照らし、役割と情報の渡し方を改めます。

最初に試す一件

設計から調達へ渡すなど、一つの受け渡しを選び、準備する情報と判断時点をそろえて次案件で試します。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- 納期や生産能力に影響した、直近の制約は何でしたか。
- 人の実務能力と、設備・部材・契約の条件を分けて確認できますか。
- 次工程が判断を進めるために、誰のどの情報が必要ですか。

社内に残すもの

- 一工程の準備・情報・判断の関係整理
- 若手の実務課題と専門家の支援計画
- 判断待ち・再作業と条件の確認記録

実践後に確かめること

- 次工程に必要な準備がそろった時点
- 判断待ちと再作業が起きた条件
- 若手が担えた範囲と専門家の負荷

一緒に進める人と役割

生産・工程の責任者	対象工程を選び、設備・部材・契約の条件を判断します。
実務担当者・専門家	技術基準に沿って担当範囲を試し、判断と支援を記録します。
当社	実務課題と部門間の受け渡しを具体化し、次の経験と支援を設計します。

実施条件と、役割の範囲

工程の記録を確認でき、責任者が任せる範囲と実践に使える時間を整えます。 生産技術や工程能力の判定は専門部門が担います。設備・部材が主な制約なら、必要な運営判断を先に行います。

支援を組み立てる根拠

仕事・権限・支援をそろえる経験設計を用います。工程固有の技術判断と制約は、生産・調達の専門家に確認します。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

公開情報調査（2026年11月1日）から構成した検討案。

詳細を見る